

うのてん報広

発行・秋田県天王町役場 TEL(天王)1.42.135
編集・企画室 印刷・一日市印刷所 TEL(一日市)38

町のうごき	
数	4,017
籍人口	14,052
本籍帯数	2,767
住民登録口	13,060
内男	6,464
女	6,596
9月1日現在	

産業祭と文化祭

11月1日から3日間



天小で多彩に催す

ことしの産業祭は来る十一月一日から三日間、天王小学校で開催されること過日、産業祭運営委員会で決まった。

余興や講習会も
農産物などを一堂に展示し、その優劣を検討して技術の向上を図る農産物品評会は、昨年、一昨年とも種々の事情により中止されてきたが、ことしは名称も新たに「産業祭」と改め、盛大に開催する。

会期は十一月一日から三日までの三日間で、天王小学校が会場。出品意欲を盛り上げるため産業祭予算もいままでの約三倍を見積り、賞品や参加賞の内容もグンと充実する。

また、文字どおり町産業のお祭りとするため、花火のうち上げ、余興、稲作講習会も行なう予定だ。さらにこれと併行して町公民館でもいけ花教室、展覧会を開くなど多彩な日程が組まれている。

現在、役場、農協、共済組合が一丸となって準備を進めているが、出品物、参観者ともこれまでになく多くなるものと予想され、充実した産業祭にしたいとその受け入れ体制に懸念だ。

各部落にしゅう集車

文化祭

町公民館では産業祭の開かれる天王小学校で、文化祭を開催す。内容は十一月一日、二、三の三日間は町制施行十五周年記念展覧会の二つ。

いけ花教室

いけ花教室は一日の午前十時から午後三時まで開かれ、講師に龍生派の天野玉雲、安田玉祥の両先生を迎える。この日習得した作品は、製作者の氏名をつけてそのまま文化祭のいけ花展示室に展示、参観者に見てもら

- ▽二田一区 船木助太郎。▽二田二区 浅野惣太郎。▽二田三区 芳賀金蔵。▽二田四区 眞壁信太郎。▽大崎上 菅原富藏。▽大崎中 吉田新一。▽大崎下 三浦甚五郎。▽羽立甲 鈴木鎮治郎。▽羽立乙 安田慶悦。

産業祭部落協力員

- ▽中羽立 菅生喜作。▽渋谷 渋谷竹治。▽塩口 石川久米治。▽天王上 荒町 岩谷文治郎。▽天王下 荒町 柿崎金右エ門。▽天王本町 曲町 京谷周太郎。▽江川上 石黒豊之助。▽江川下 伊藤兼藏。▽兄玉 兄玉孝

それに、ことしは出品を容易にするため、各部落に出品物しゅう集のための自動車を配車。とくべつ品質などにき損のおそれがあるものを除いては、部落内に委嘱してある協力員を通じて車で運ぶことになっている。事務局ではたくさん出品してほしいと望んでいるが、とくに各農家は必ず一点以上出品してほしいといっている。

祭

対象は婦人会員、生活学級生若妻会員、各種団体、グループの会員のほかいけ花愛好者となっています。たくさん参加してください。

商工展

町内商工業者による商工展が一日から三日まで天王小学校を会場に開かれる。出品者は次のとおり。

- 電器器具 曙商会
- 家具建具 五洋電子工業KK
- 自転車 天王町指物業組合
- 肥料 鎌仁商店
- 盆 栽 三浦利七商店

農産物出品要項は二面にあります。

搬入は十一月一日の午前中で

九月定例町議会開く

一般会計 三千百万円追加

九月定例町議会は九月二十一日開会され、四十一年度一般会計および特別会計補正予算案、国保条例の一部改正案など上程された六案件を原案可決して同日閉会した。

四十一年度一般会計は歳入歳出にそれぞれ三千二百二十万四千円が追加され、予算総額は一億五千八百三十万一千円となった。内訳は次のとおりとなっている。(単位千円)

【歳入】

民生費 二一六
衛生費 二〇〇
農林水産業費 二五、〇〇二
商工費 三〇
土木費 二、〇一一
消防費 六八
教育費 二、四〇五

使用料および手数料 五二
国庫支出金 三三八
県支出金 二四、四六二
寄付金 三〇〇
繰越金 六、〇五二

【歳出】
総務費 一、二七二

▽水稲十株。▽陸稲二十株。▽麦類、菜種二リットル。▽雑穀(玄米、だいず、あずきあわ、きび、ささげ、えんどうそば)二リットル。▽飼料作物および種子一リットル。▽葉たばこ三十枚。▽果実二キログラムまたは二房。△そさい五ヶ、一リットル、一把。

産業祭

農産物出品要項

大ねぎ二十本。にんじん、ごぼう十本、大根、長いも二本。かぼちゃ、甘らん、花やしき、玉ねぎ、じゃがいも、ゆり、さつまいも、球茎甘ん五個。はくさい、たいな二株。さといも、くわい一リットル。メロン二個。キュウリ二キログラム。▽そさい種子二〇・二リットル(すいかなどの

本、つけもの類五本または六百グラム、竹細工一個または一組。▽水稲多収競争地続き同一品種三十アール坪刈。▽菜食農繁期料理、日常栄養料理、オヤツ各一食。▽大物コンクール農産物で特別大きいもの(ただし、無審査、賞品はありません)

昭和41年度 結核一般住民検診成績

地区名	住民登録人口	対象者	受診者	受診率
塩田	465	304	294	96.71
羽立	689	523	306	58.51
渡谷	206	137	90	65.69
天王	1,891	1,034	807	78.05
江川	725	483	336	69.57
児玉	159	107	105	98.13
大田	860	651	584	89.71
二田	751	448	340	75.89
二田	314	120	117	97.50
二田	724	487	315	64.63
二田	91	75	25	33.33
蒲沼	66	34	30	88.24
下出	431	288	175	60.76
出戸	93	59	53	89.83
細谷	94	69	53	76.81
上出	362	226	153	67.70
追分	348	158	143	90.51
牛坂	58	32	32	100.00
追分	538	282	133	47.16
中羽	200	125	125	100.00
合計	9,065	5,642	4,216	74.73

全世帯員が七割給付
天王町国民健康保険条例の一部が改正され、明年一月一日から、医者にいかつた場合の被保険者の負担金が軽くなります。現在、被保険者が医者にいかつたときの自己負担金は、世帯主が三十%、その他の世帯員が五十%となつていますが、明年一月一日からは世帯主以外の人も三十%の負担金で済むことになり、待望の全世帯員七割給付が実現します。

教育委員に海山氏を再選
任期満了に伴う教育委員には、天王町天王字追分西十九番

地の海山徳之助氏(六十七歳)が再選された。
二つの寄付を採納
東湖小PTAと下出戸部落自治会から申し出があつた寄付が採納された。

【二十万円】▼寄付者東湖小学校PTA(京谷仁太郎会長)▼寄付の目的東湖小学校の環境整備事業および設備費にあてるため。
【五万円】▼寄付者下出戸部落自治会(加賀谷幸太郎会長)▼寄付の目的下出戸児童遊園地の施設費にあてるため。

第一次結核検診

昨年を大きく上回る

今年度の第一次結核検診は、去る七月十一日から一ヶ月間にわたつて町内二十一ヶ所で行なわれたが、受診者は昨年を大きく上回つた。

第一次検診だけを比べると受診者数で約千人多く、受診率は七十四・七パーセントと昨年は十七・九パーセントも上回る成績をあげている。結核予防婦人会、地区保健会を中心とした活躍が大きくものをいっているが町民ひとりひとりの検診に対する関心が高まつていることもみのがせない。とくに、中羽立、牛坂地区の百パーセントをはじめ児玉、二田新町、塩田、追分西北の六地区はいづれも九十パーセント以上の成績を納めた。また、第二次検診は十一月中

青色申告は有利です

所得税は申告納税制度になつています。これは、自分の所得を計算して申告し、その所得に対する税金を自主的に納税するという事です。
この申告納税制度を民主的税制としてより発展させるために青色申告制度があるわけです。青色申告には多くの特典がありますがおもなものをあげると次のとおりです。

第一は、推計課税の禁止です。これは帳簿書類の調査を受けたあとでなければ、実正や決定を受けることがないということです。
第二は、売掛金の回収不能や不渡り手形などの貸し倒れ金は必要経費として損金算入できることです。
第三は、欠損金があつた場合は損金算入できるほか、翌年に

向から行う予定だが、第一次検診の際受けなかつた人は、必ず第二次検診で自分の健康を確かめなさい。
なお、第一次検診の結果、役場から通知のなかつた人は異状の認められなかつた人です。

故石川氏らに叙勲

戦没者に対する叙勲(五月十二日付け)の伝達式が十月七日、役場で行なわれた。(住所戦没者名、代表遺族名の順)
旭七

- 天王 石川金之助 妹クニ
- 江川 藤原勇之進 母夕子
- 天王 沼田 俊男 母キセ
- 旭八
- 天王 柏崎 由吉 父与市
- 大崎 沼田 金蔵 兄力松
- 大崎 三浦 三郎 妹ヒサ
- 大崎 三浦甚之助 従兄喜助
- 下出戸 加賀谷徳蔵 弟豊治
- 二田 鈴木 林治 弟専一
- 二田 伊藤 金一 母スギノ
- 大崎 吉田 兼治 兄兼太郎
- 大崎 三浦五郎一 弟五郎二
- 上江川 吉田 伝仁 兄伝治郎
- 上江川 三浦 銀作 父清之助
- 田 瑞八
- 田 長久保一美 弟義実

事故撲滅

みんなの注意で

秋田県内でのことしの交通事故による死傷者は、十月十三日現在で二千五百十八人と昨年同期(二千百四十四人)を大きく上回りこのままでゆけば悲しい新記録になりそうだと憂いをもたれている。



秋田県内でのことしの交通事故による死傷者は、十月十三日現在で二千五百十八人と昨年同期(二千百四十四人)を大きく上回りこのままでゆけば悲しい新記録になりそうだと憂いをもたれている。

らゆる対策がたてられ、交通安全がさげばれている。しかし、事故はなくなるどころか減るようすもない。連日のように新聞でラジオ、テレビでいたましい交通事故のニュースが伝えられ、いやがうえにも事故のおそろしさ、悲しさを身にあまるほど知らされているのに、事故は起きている。交通事故という言葉は日増しに私たちの近くに迫り、もはやひとごとではおられない。自分が被害者になりかねない状況にある。しかし、そうした中でどうしても防ぎきれなかつたという事故は、数えるほどしかないというのも事実だ。ハンドルを握る人が、道路を歩く人が、もう少し注意をはらつておれば事故は起こらなかつた。

国をささえる若い力

—自衛官募集—

自衛官を募集しています。日本の平和を守る自衛官。規律正しい生活、学習、訓練、スポーツですぐれた社会人として成長します。

【身分・待遇】

特別職の国家公務員で、二士初任給は月額一万四千円、ほか各種手当で、賞与年三回、退職金もあります。

【福利・厚生】

衣、食、住は無料。健康管理

には万全を期し、スポーツ、趣味、娯楽、隊外クラブ、売店など厚生施設にはとくに力を入れています。

【特典・進路】

通学、通信教育を受けることもでき、各種の専門技術の免許をとる機会も豊富です。永続勤務や幹部自衛官に昇進の道もあります。

【応募資格】

十八歳から二十五歳未満の男子。その他、くわしいことは役場総務課へお問い合わせを。

たというのが大部分を占めている。

ひとりひとりのちよつとした注意と努力で、事故は防げるのだ。ハンドルを握っている人がその車を一瞬にして凶器と化すことを真に認識しておれば、交通法規を無視することはないはずだ。酒を飲んで運転はしないだろうし、無理な追い越しやスピードの出すぎはしないはずだ。

また、歩行者もほんとうに事故のおそろしさを認識しておるならば、急に道路へとび出したり、車の直前直後を横断するといふ怪わざ師なみのことはしないはずで、ヨチヨチ歩きの子どもをひとり歩きさせることもできないはずである。

秋田県内では、十月十三日までにすでに九十四人も人が交通事故の犠牲者となつた。広い国道や県道ばかりでなく、事故など起きたこともなかつた小路でさえ死者はでていた。道路にこび散つたガラスの破片や血に目をおおつたよりも、ひとりひとりが注意して事故が起きないよう注意をはらおう。十月十一日から秋の交通安全運動が行なわれています。

入賞作品決まる

町交通安全対策協議会では、秋の交通安全運動の一つとして町内五つの小、中学校から交通安全ポスターを募集していたが、このほどその入賞作品を決めた。

【金賞】

追分小 五年 藤井 文夫

天王中 一年 村山 文夫

追分小 五年 鶴谷左絵子

追分小 五年 鶴谷左絵子

敬老の日

四十一年度の敬老会は九月十五日、天中体育館に二百四十名のおじいさん、おばあさんを集めて行なわれた。

町長始め来賓から「いつまでも長生きしてください」と長寿を祝す言葉がこられたあと、婦人会員の心づくしの料理に舌つづみをうちながら、民謡などで楽しい一日を過ごした。

健康から感謝状

健康生活推進委に

第七回秋田県公衆衛生大会は十月十一日、秋田県民会館ホールで開かれたが、この大会で天王町健康生活推進委員会に県知事から感謝状が贈られた。

これは、同委員会が献血運動の推進に大きな功績をはたしていることに対するもので、記念品として盾が添えられている。また、第四回秋田保健所地区公衆衛生大会は十月二十二日、河辺町で開かれるが、この大会では同委員会および地区保健会などの保健衛生組織づくりに大きく寄与された藤原慶一郎氏と部落民の結核検診率向上に功績



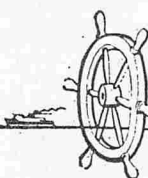
「いつまでも長生きしてください」と町長からハトツエを贈られるおじいさん、おばあさんのあつた塩口地区保健会結核予防部の一個人、一団体の表彰も内定している。

子どもの広場

詩

「おき」
出戸小三年 菊地光子

たぐさんたぐさん およいでも
おきにはなにかがあるだろう
おきにはなにかがあるだろう
すきとおつた海
いつかいつてみたい
おき
いつかきつといけるだろう
海
いいなあ



善意

現金のはいつた免許証入れを拾い、そのお礼としていただいたお金を町社会福祉協議会へ寄せてきた中学生がいる。

天王中学校三年の菅生妙子(中羽立)、鈴木信子(羽立)さんのふたりで、さきごろ登校の途中、羽立の道路から皮ケースを拾った。ふたりは早速これを天王巡査部長派出所へ届け出したものだが、たまたま東京から母親の病気を案じて帰省し、これを落として困っていた人がみつかり無事本人の手に戻つた。

ケースの中には現金三千円と自動車の普通運転免許証がはいっていたが、落とし主から感謝の気持ちとしてふたりへ千円がこくられ、これをそつくり「恵まれない人たちにあげてください」と町社福協へ寄せてきたもの。

男鹿・南秋の美容講習会

男鹿・南秋商工会主催の「美容講習会」が九月二十日、本町で行なわれた。

南秋の商工会が毎年開催しているもので、ことしは男鹿市も加わり七市町村から約五十名の美容師さんが参加した。これまでは、おもに流行髪型をテーマに講習会を開いてきたが、今回は東京美容専門学校の大道路寺玲子講師を迎えて、婚礼衣装の着付けを取り上げ、二人のモデルを使った細かな説明に熱心にメモをとる人も多かった。

お出かけのとき「たばこ」がきれそうだったら町内の店から買いましよう

